

平成28年度  
山陽小野田市中学生海外派遣事業  
帰国報告書



平成28年8月11日(木)～8月22日(月)

山陽小野田市

## 目次

中学生海外派遣事業概要 ..... 2

- 1 目的
- 2 派遣先
- 3 派遣期間
- 4 派遣生徒及び引率者
- 5 スケジュール

活動日誌 ..... 4

ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介 ..... 7

- ・派遣生徒
- ・引率者

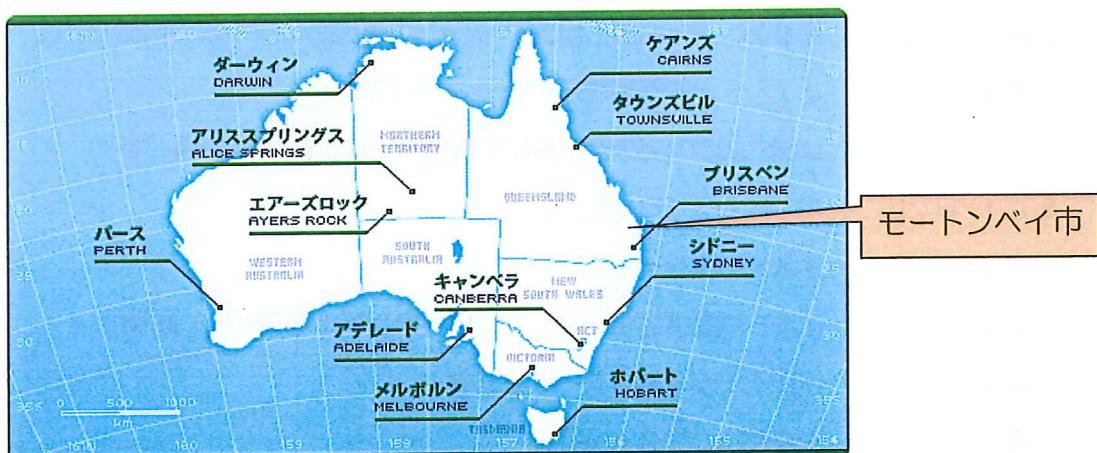
## ◆中学生海外派遣事業概要

### 1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

### 2 派遣先

オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



### 3 派遣期間

平成28年8月11日(木)～8月22日(月) 12日間

### 4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

井上	たくや	厚陽中学校2年	河本	ゆうき	埴生中学校3年
木村	みゆき	高千帆中学校3年	京野	はな	竜王中学校3年
辻村	えり	厚狭中学校3年	牧野	まきの	小野田中学校2年
桑村	ひろふみ	高千帆中学校教頭		莉帆	



## 5 スケジュール

### 【事前研修】

第1回オリエンテーション	6月28日(火)18:30~	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション (宿泊研修)	7月26日(火)13:30~ 27日(水)12:00	きらら交流館1階研修室
壮行会	8月3日(水)10:00~	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	8月3日(水)壮行会終了後	市役所3階大会議室

### 【オーストラリア派遣期間】

8月11日(木)	厚狭駅～福岡空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月12日(金)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式。終了後校内で過ごす
8月13日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月14日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月15日(月)	スカーバラ小学校(※1)、ハンピーボング小学校(※2) 訪問
8月16日(火)	レッドクリフハイスクールで授業
8月17日(水)	動物園＆ブリスベン観光
8月18日(木)	博物館と美術館見学
8月19日(金)	さよならパーティー&レッドクリフハイスクールで授業
8月20日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月21日(日)	ブリスベン空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月22日(月)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 スカーバラ小学校は高千帆小学校の姉妹校

※2 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

### 【帰国後】

帰国報告会	9月28日(水)17:00～	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------



## 活 動 日 誌

日付	報告者	活 動 内 容
8/11 (木)	牧野 莉帆	今日は、ずっと移動でした。チャンギ空港はとても大きく、車などで空港内を移動しました。空港で働いている方たちはすごく明るくて優しかったです。また、朝、担任の先生が見送りに来てくださっていて、お守りをください、とても嬉しかったです。
	井上 卓哉	チャンギ空港では約 5 時間、空き時間があったのでいろいろな所を見て回りました。特に「バタフライガーデン」でとても蝶が人慣れしていて触ることができたのでびっくりしました。また、機内では明日への不安と緊張もありなかなか眠ることができなかつたです。
8/12 (金)	辻村 紘里	ホストファミリーと初めて会ったが、気さくに話しかけてくれたので、少し緊張がほぐれた。家にはたくさんのペットがいた。大きな犬と小さな犬、ねこ、鳥などにふれあえた。学校では、小学生と一緒に日本語の授業を受けた。先生が話した英語が最初は聞き取れなかつたが、少しずつ分かるようになった。
8/13 (土)	木村 美由希	朝起きたら、飼っている犬のスパーキーが私が寝ているベットに登ってきたのでびっくりした。バディとお姉さんとゲームをした。お昼は買い物に行った。いろんなお店を回ることができた。夜は折り紙を折って楽しんだ。ホストマザーは私にボールの作り方を教えてくれた。みんな上手だった。
	京野 羽菜	ホストファミリーとの初めての休日でした。バディーの Karla と一緒にバスと電車にのって Karla が通っている日本語教室に一緒に行きました。先生は日本人のまちこさんという人で久しぶりに日本語での会話をしました。午後は妹の Talia と弟の Luke とシャボン玉で遊んだり折り紙を使ったゲームをしたりしました。とても楽しかったです。
8/14 (日)	河本 勇輝	今日は午前中にビーチへ行った。家から約 1 時間のビーチでたくさんの犬がいた。ホストファミリーも犬を飼っているので一緒に遊んだ。とても綺麗で楽しかった!!水は冷たかったけど…。お昼ごはんのミートパイが美味しかった!!夜に一緒に習字をした。自分のお手本を見ながら、とても熱心に書いてくれた。
	井上 卓哉	Leo のサッカーの試合を観戦しました。そして、その後は「ピクニックマーケット」に行き、Emma の料理を食べました。お土産で渡したお米を使ってくれていたのでうれしかったです。そして、Bella のサッカーの試合を観戦し、帰ってピザパーティーをしました。Emma が作ってくれたピザは最高に美味しかったです。

日付	報告者	活動内容
8/15 (月)	牧野 莉帆	今日は、スカーバラ小学校とハンピーボンゲ小学校を訪問しました。小学生は中学生よりも friendly で、手をつないでくれたり、「こんにちは」とあいさつをしてくれ、とても楽しかったです。お昼に持っていたじやがりこをあげると、「Yummy！」と言って、抱きついてきてくれ、嬉しかったです。また、小学生の英語を聞いたことにより、少し早い英語でも聞きとれるようになりました。
8/16 (火)	木村 美由希	初めて、日本語授業以外の授業に参加した。11年生の数学の授業だった。難しくてよく意味が分からなかったが、隣の席の子が一生懸命説明してくれたので、どんなことをしているかが分かった。電卓のようなものを使って計算していた。驚きの連続だった。
8/17 (水)	河本 勇輝	今日は、Lone Pine Sanctuary をはじめ、いくつかの観光地を巡った。動物園ではカンガルーに餌をあげたり、コアラを見たりした。バディも仲良くなれてよかったです。展望台からの眺めも最高だった!!夜には“肉じゃが”を作つてあげた。美味しいと言ってくれて一瞬で無くなった。
8/18 (木)	河本 勇輝	今日もとても楽しかった!ブリスベンの街を歩き、なんと言っても“フェリー”が一番楽しかった。とても綺麗な街で満喫できた。博物館や美術館もとても綺麗で面白かった。バディは変わったけど、昨日より仲良くなれた気がする(笑)。レッドクリフの人ともしっかり交流できてとても良かった。
8/19 (金)	辻村 紘里	レッドクリフステートハイスクールに行く最後の日。日本語と数学の授業に参加したあと、さよならパーティーをした。用意してくださったミートパイやフリスピ一先生の奥さんが作ってくださったカップケーキはとてもおいしかった。その後の日本語の授業でみんなでいっしょにゲームをした。楽しんでくれたのでとても嬉しかった。家に帰ったあと、Kyla と Donna と3人で海沿いを散歩した。とてもきれいで感動した。
	京野 羽菜	学校で過ごす最期の日でした。「さよならパーティー」があり、今まで授業に参加したクラスの子たちがきてくれました。中には、私の名前を覚えてくれ、呼んでくれる子もいてとてもうれしかったです。出し物の日本のゲームはみんな楽しんでくれて大成功でした。放課後は、バディの友達と一緒にみんなでマックに行きました。うれしいことがたくさんあった一日でとても思い出に残りました。

日付	報告者	活動内容
8/20 (土)	牧野 莉帆	今日は、“Confirmation”という、キリスト教信仰式に参加しました。教会で、お祈りをしたり、歌つたりと私は何をしたらよいかわからず、その場にいるだけでしたが、なかなかできない経験をしました。お昼からは、brisbaneでいちばん安いお土産屋に連れて行ってもらい、たくさんのお土産を買いました。時間がかかったのに、「全然大丈夫だよ！」と言って待ってくれ、とても助かりました。
8/21 (日)	木村 美由希	ホストファミリーと過ごす最後の日。いつも通り、朝食を摂り、キャッシーとホストファザーとマーケットに行った。2人でオレンジジュースを飲んだ。記念に3人で写真を撮った。まるで、これでホームステイが最後になると感じないくらい穏やかだった。しかし、お別れとなると、自分が思ってもみなかつぐらい涙が止まらなかった。キャッシーとホストファザーが抱きしめてくれた。ホストファミリーのみなさん、ありがとう。
	井上 卓哉	いよいよホストファミリーとお別れするときがやってきました。家を出る前にEmma がお土産としてベジマイトやマカダミアナッツ、コアラのぬいぐるみなど、僕が好きだと言っていたもの全てをくれました。こんなにも自分のことを思ってくれてるんだと思ってうれしくなりました。代わりに僕は時間が空いたときに書いていたメッセージカードをあげました。Emma はとても喜んでくれました。この家族は僕のもう1つの家族です。ありがとう！
8/22 (月)	辻村 絵里	飛行機の中では3時間ほどしか寝れなかったが、窓から見る星空はとてもきれいで、いやされた。久しぶりの日本は、brisbaneとまったくちがい、建物が小さく見えたが、とても落ちついた。
	京野 羽菜	無事に到着し、お母さんの顔を見るとすごく安心し、日本に帰ってきたんだと思いました。今回のオーストラリアでのホームステイは私にいろいろなものを与えてくれたとてもよい経験でした。関わったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

## 厚陽中学校2年



いのうえ たくや

## 井上 卓哉

### 1計画(PLAN)

今回の海外派遣事業での目標は3つあります。1つ目は現地の人と自分から積極的に関わり、jesusチャヤや表現を交えながらコミュニケーションをとり、沢山の人と交流することです。2つ目はオーストラリアの生活の中で色々な習慣や文化に触れ、日本との違いを見つけることです。3つ目は生の英語に触れ、英語力を高めることです。この3つの目標忘れずにこの海外派遣事業に挑みたいです。

### 2行動(DO)

英語は苦手だけど、知っていた単語や事前に調べておいた単語を組み合わせてたくさんの人と積極的に会話しました。どうしてもわからなかった単語や表現は電子辞書を使ったり、jesusチャヤなどで表現しました。レッドクリフハイスクールの生徒はとてもフレンドリーで、すぐに仲良くなりました。好きな日本のアニメが同じだったので、そこから話が盛り上がりました。またホストファミリーは日本のことにとっても興味持ってくれたので、地図や折り紙などを通して日本の文化をたくさん知ってくれました。そして、「日本に行きたい!」と言ってくれたので嬉しかったです。

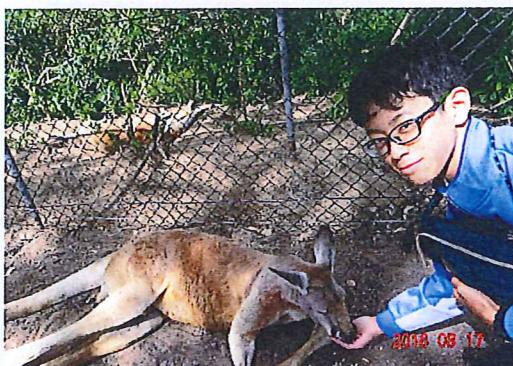
### 3評価(SEE)

☆90点

10点減点した理由は会話をする際にjesusチャヤや翻訳に頼りすぎてしまったからです。知識として身についておいた単語も実際に話すとなると思い浮かばず、jesusチャヤや電子辞書を使ったり、ホストファミリーに翻訳してもらって、理解することが多かったです。知識として身に付けても、実際に使わなければ意味はないと思いました。僕がまた海外へ行く時は、今回の経験を活かして実際に話す練習をし、英語で会話する能力を身に付けたいと思いました。

### ★オーストラリアの人々と接して

僕はオーストラリアで日本ではすることのできない沢山の体験をしました。オーストラリアの人たちはとてもフレンドリーで話しかけやすく、自分とは思えないくらいに積極的に会話しました。レッドクリフハイスクールでは、日本語や数学の授業に参加したり、現地の生徒たちと動物園や博物館に行ったりして沢山の思い出を作ることができました。人と会話することがこんなにも楽しいなんて生まれて初めて思いました。



様々な体験をした僕ですが、その中でも特に印象に残っているのが、オーストラリアの人たちとの会話です。学校に行く前は、ちゃんと英語で話せるのか、打ち解けられるのか不安だったけど、実際に話してみるととてもフレンドリーで僕と日本のこと興味持ってくれました。「どこに住んでいるの?」「日本で好きなアニメは何?」「オーストラリアで好きな食べ物はある?」など、次々と質問し

てくれました。そこから僕も自然と話せるようになり、すぐに打ち解けることができました。それでも、英語で話すのはわからないことが多かったけど、ジェスチャーや他の単語を使って一生懸命伝えようしてくれることが、とてもうれしかったです。また、小学生との会話はとても面白いけど話すスピードが速く、難しくて自分はまだまだ未熟だと思いました。



オーストラリアでは日本とは違った新しい体験を沢山し、とても刺激を受けたので今後はこのことをこれからの中学校生活に役立てたいと思います。この10日間、時が経つのを忘れるくらい毎日をとても楽しく過ごせたのはレッドクリフハイスクールの人たち、そして何よりホストファミリーの皆のおかげです。いつも明るくて、笑顔で話してくれて僕を受け入れてくれました。英語が伝わらなかったら翻訳してくれ、分かり合えるまで接してくれました。おかげで僕の英語力も少し上がった気がしたし、人見知りも克服できました。このような素晴らしい派遣事業を企画してくださった方、そして僕を選んでくれた方にとても感謝しています。ありがとうございました。これからもこの経験を将来に少しでも役立てるように頑張ります。

## ホームステイ報告書

僕のホストファミリーは5人家族で、動物が大好きなどても明るい人達でした。



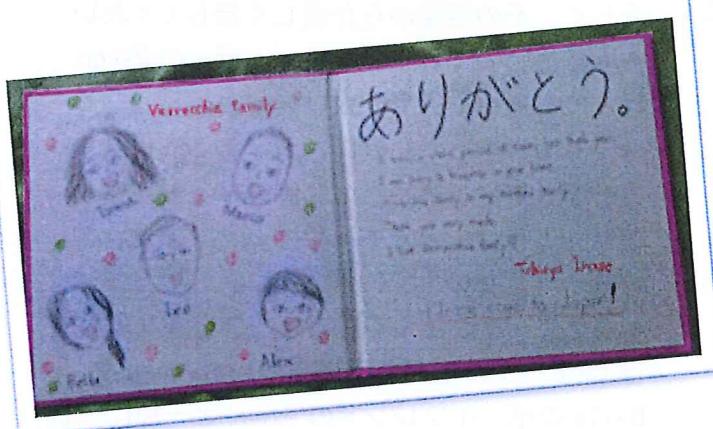
マザーのEmmaは日本に留学したことがあるらしく、その経験からか優しく接してくれいつも気遣ってくれました。父のMarcoはとても面白い人で、会話をすれば僕はいつも笑っていました。僕のバディのLeoはサッカーをしていて上手だし、映画や折り紙などのアート作品もとても上手でした。また、姉のBellaと弟のAlexと仲が良く、3人と僕の4人でゲームなどして過ごしていました。家ではEmmaやLeoと神経衰弱をしたり、LeoやBellaのボーイフレンドのOscarと一緒にテレビゲームで遊んだりしました。Emmaは僕が寂しくないようにいろいろな話をしてくれたり遊びをしてくれたりしました。また、いつも「寒くない?」や「お腹すいていない?」など僕の体調も気遣ってくれて、まるで本当の母のようでした。Leoは僕と同じで少し人見知り



でしたが、それでも僕と一生懸命接してくれてうれしかったです。休日には Emma と Leo と一緒に登山をしました。そして、頂上付近で Leo と記念撮影をしました。その写真は今でも宝物です。

オーストラリアでの 10 日間もあつという間に過ぎ、お別れをする日がやってきました。Emma がプレゼントで、僕が好きだと言っていたものやカレンダーなどの日常で使えるものをくれました。うれしさのあまり泣きそうになりましたが、我慢して僕からも時間がある時に書いていたメッセージカードをプレゼントしました。

Emma はとても喜んでくれました。ホストファミリーとは今でもメールでやりとりをしています。その時に Emma が「私たちもいつか日本に行く予定よ。」と言っていました。それが本当に叶って僕と再会する日が来るといいです。ありがとう、僕のもう 1 つの家族 “Verrecchia 家”。



ホストファミリーの紹介  
Verrecchia 家

父 Marco  
母 Emma  
娘 Gabriella(Bella)  
息子 Leo  
息子 Alex



## 埴生中学校3年

かわもと ゆうき  
河本 勇輝

### 1計画(PLAN)

#### 【目標】

- 自分の英語力の向上と将来への視野を広げる
- 仲間と協力し、文化交流を充実させる
- ・ホストファミリーをはじめ多くの人と会話し、英語に親しむ
- ・文化や考え方の違いを見つけ積極的に取り入れる
- ・打ち合わせをしっかり行い、スムーズな文化交流を行う

### 2実行(DO)

街で会う人や、お店の人などが気軽にあいさつをしてくれました。「どこからきたの？」とか「滞在を楽しんでる？」などと聞かれ、ホストファミリー以外の人と話す機会がたくさんありました。学校では「こんにちは！」と生徒から声をかけてくれて、とても嬉しかったです。文化の違いとしてはやっぱり食事です。主食がポテトフライ。これは日本ではありえないことだと思います。夕食がポテトフライとワインナーという日がありました。他の日の夕食も日本とはまったく違う驚きがありました。けれど、ご飯はどれも美味しく最後の方はすっかり慣れてしまいました。学校のさよならパーティーの出し物では、しっかりと日本のゲームを伝えることができました。向こうの生徒はとても楽しんでくれて、いい思い出になりました。

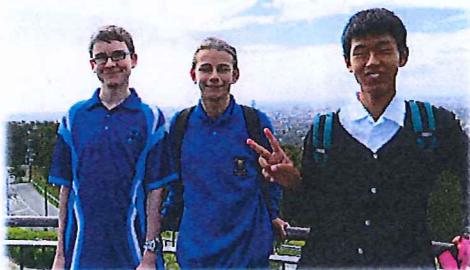
### 3評価(SEE)

☆90点

10点の減点には理由があります。その理由はもう少し自分から話しかけてみればよかったと思ったからです。ホストファミリーが、オーストラリアについていろいろ説明してくれました。内容を理解したり、質問に答えたりすることはできました。ですが、YES, NO だけで終わってしまったり、簡単な説明しか言えなかったりしました。家族としっかりと触れ合い、自分

の感情を伝えることはできましたが、日本や自分についてもう少し説明してあげられたらよかったと思いました。ですが、学んだ事もたくさんあります。英語や外国にもっと興味がもてました。色々な文化や人間性の違いをもっと知りたいと思い、これからも自ら様々なことに挑戦していきたいと思いました。

### 最高の思い出～あっという間の10日間～



日本に帰ってきたことが今でも信じられません。ホームステイをしている時は、毎朝起きてたびに日本じゃない！！と思っていましたが、今はその逆です。ずっと楽しみにしていたホームステイもあっという間でした。最初のうちは、ホームシックになりそうでしたが、ホストファミリーの優しさと明るさですっかり慣れてしまいました。平日は、レッドクリフスクールハイスクールで過ごしました。学校の印象としては、『皆が自由』だと思いました。学校でスマートフォンを使っていたり、10時頃におやつタイムが入ったりと日本と違うところが多くあったからかもしれません。ですが、皆と接していくうちに、ただの自由ではないことが分かりました。向こうの生徒は日本人よりも皆が調和して個性豊かに自分を表現していました。

皆、考え方には余裕を持っていて、広い心でお互いを尊重していました。日本よりも皆が調和していて、仲間意識が強いように感じました。日本とオーストラリアでは予想以上に考え方などの違いがあり、驚きと新鮮さを感じました。

レッドクリフの生徒さんはとてもフレンドリーで、校内を歩いていると「コンニーチワ！」とあちこちからあいさつをしてくれました。お昼ご飯の時などもたくさん的人が日本語教室に来てくれて、にぎやかなお昼になりました。皆、日本語の授業にも熱心で自己紹介をしあったり、質問などをしたりして、とても距離が縮まりました。

小学校訪問もとても印象的です。小さい男の子たちが僕の手を引っ張って学校を案内してくれました。お昼ごはんと一緒に食べ、おやつの交換をしたり、ラグビーと一緒にしたり、とても楽しかったです。小学校でも日本語の授業が行われており、iPadを使ったりして楽しくみんなで日本語を学びました。

お別れパーティーでは、日本のゲームを伝えることができ、皆と楽しみ、何人かの生徒と連絡先も交換しました。まだまだ本当にたくさんの思い出ができました。オーストラリアの滞在が昨日のように鮮明に思い出されます。とてもいい経験と思い出ができたことにとても感謝しています。また、海外の文化ともたっぷり親しみ、ますます外国が好きになりました。



## ホームステイ報告書

ホストファミリーの Michelle さんとは、brisbane に到着した日の宿泊学校で会いました。「Hello! Nice to meet you」と笑顔で話しかけてくれました。今回ホームステイさせていただいた家族にはバディがおらず、ホストマザーの Michelle さんがレッドクリフ SHS の先生でした。ホストファーザーの Matt さんと 12 歳の Lucien 君の 3 人家族でした。ホストファミリーはとても優しく色々な所へ連れて行ってくれました。ホームステイに関して、期待と不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーと会ってから、不安は一切なくなりました。

最初の休日は EKKA というクイーンズランドの祭りに連れて行ってくれました。たくさんの動物や伝統的な仕事の職人など、色々と説明をしてくれました。「見たいところはある？」とこまめに聞いてくれて、とても優しく案内してくれました。2 日目はビーチに連れて行ってくれました。愛犬のビューディと Lucien 君と Matt さんの 3 人 + 1 匹で行きました。犬と一緒にビーチで遊んだり、皆で散歩をしたりしました。昼にはオススメのミートパイを食べさせてくれました。初めて食べたのもあってとても美味しかったです。



平日は Michelle さんと学校に行きました。「夜ご飯に食べたい物ある？」と毎日聞いてくれました。車の中では、オーストラリアの学校や制度について、また街の説明などたくさんの話をしてくれました。夜は、折り紙を

したり書道をしたりしました。向こうの学校では日本文化がよく知られており、折り紙はしたことがあるそうでした。ですが紙風船は知らなかったみたいで、Lucien君と一緒に折りました。



書道は、何枚か一緒に練習し、最後に書きたい字を書いてもらいました。Michelleさんは“enjoy”、Lucien君は“dog”と書きたいと言つて“樂”と“犬”を書いてもらいました。

他の日には肉じゃがを作つてあげました。日本で作る時よりも多めに作りました。ですが、皆「美味しい！」と言ってくれて全部なくなきました。材料や作り方を聞いてくれて肉じゃがを気に入ってくれたようでした。ここに書くとキリがありませんが、他にもたくさんの思い出ができました。ホストファミリーはとても親切で、家族同然に受け入れてくれました。10日間というのはあつという間

でした。もう一つの家族ができたみたいで、お別れはとてもさみしかったです。

また皆に会いたいです。とても素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

A page from a spiral-bound notebook. On the left is a small photograph of the Fry family: a man, a woman, and two children. To the right of the photo is the title "ホストファミリーの紹介" (Introduction to Host Family) in blue. Below that is the name "Fry家" in red. Underneath that, the family members are listed: "父 Matt Hoogen", "母 Michelle Fry", and "息子 Lucien Hoogen".

ホストファミリーの紹介

Fry家

父 Matt Hoogen  
母 Michelle Fry  
息子 Lucien Hoogen



## 高千帆中学校3年

きむら みゆき

木村 美由希

### 1計画(PLAN)

今回の派遣で達成したいことは2つあります。1つはオーストラリアについて肌で感じるということです。文化や習慣などを学び発見していきたいと思います。もう1つは、たくさん会話をすることです。ジェスチャーを使い意思の疎通ができるようにします。また会話をすることで自分の英語力を高めます。この2つを達成するために恥ずかしがらずどんどんチャレンジしてきます。

### 2実行(DO)

会う人会う人にあいさつをしました。また自ら積極的に話しかけてみました。現地の方々は真剣に話を聞いてくれたり、様々なことを教えてくれたりしました。日本に興味津々で日本について知りたいと思っている人が多く、嬉しかったです。そして会話のとき分からぬ単語があってもジェスチャーをたくさん用いました。

### 3評価(SEE)

☆90点

行く前は正直なところ「大丈夫かなあ」とか「人見知りだからきちんと話せるだろうか」など、マイナスに考えている部分があったのですが、オーストラリアに行ってみると自分とは思えないようになれるようになりました。それはオーストラリアの人々が、私の話すことに親身になって聞いてくれたおかげです。しかし2、3回翻訳機を使用する場合があったので、さらに英語を上達させるべきだと思いました。勉強する上でこの経験を活用し、海外で通用する英語を身に付けていきたいです。

### ☆つながる一心と未来ー

私にとっての初めての海外は、とても有意義なものでした。行く前は不安がありました。現地の人々の温かさに支えられ、自分らしくオーストラリアでの生活を楽しむことができました。オーストラリアで出会う人達は、みんな優しくて全く寂しさを感じませんでした。



学校では日本語の授業に参加しました。初日はレッドクリフハイスクールの近くの3校の小学校から5名ずつ小学生が来ていて日本語と一緒に学びました。小学生の中には、初めのうちは打ち解けられない子もいましたが、自己紹介や質問をし合っていくうちに仲良くなることができました。次の日は2校の小学校を訪問しました。小学校でも日本語教室があり、授業の中で、iPadで写真をとり、答え合わせをする“なぞなぞ”的なゲームをしました。小学生からiPadを用いて学習することに驚きました。レッドクリフハイスクールでは数学も学びました。電子辞書で調べたもののやり方まではわからなかったので、困っていたら隣に座っていた子がわかりやすく一生懸命教えてくれ

ました。ランチタイムにはいろんな人がオーストラリアについて話してくれ、分からぬ言葉はゆっくり発音してくれたので、聞き取ることができました。この10日間は、新たな発見と驚きの連続でした。一番はホストファミリーやバディ、出会った人々の笑顔と優しさです。人と人とのつながりを大切にする心がコミュニケーションで必要だと学びました。オーストラリアで多くの素敵な方々に出会うことができました。10日間英語にひたることができ、英語力は高まったと思います。しかし、更に英語力を高めて彼らともっと話したい、想いを伝えたいと思いました。

自分の目標がはっきりと見えてきた今、この経験は私にとって、とても貴重な体験となりました。

派遣の機会を与えてくださった方々、さまざまごろで支えてくださった方々ありがとうございました。今後も更に成長し国際交流をしていきたいと思います。



### ホームステイ報告書

ホストファミリーはとても温かく接してくださいました。ホストファーザーの Carlos はとてもユーモアがある人で、子犬の Spaky との会話 (!?) が聞いていて楽しかったです。オーストラリアの男の子が主人公で日本が舞台となっている話を一緒に観た時、「東京に行つたことある? とても大きな都市だね」と言っていました。毎日、夕食後に映画を観ました。『Mr. Bean』を紹介してくれ、家族みんなで笑い合いました。TV の CM に寿司が出てきたり、日本についての紹介番組があったり、いろいろな場面で日本を感じがありました。

マザーの Maria とは毎日料理をしました。たくさんのこと教えてもらいました。バディの Cassie が寝込んだ時、代わりに話してくれました。ある夕方には、Sunset を見に連れてってくれました。とても美しい Sunset は忘れられません。

バディの Cassie とは、たくさん話すことができました。好きなスポーツや映画の話では気が合い盛り上りました。また、毎日学校での出来事を伝え合いました。しかし、私のステイ中 Cassie は風邪を引いてしまい苦しもうでした。心配でしたが、数日で元気になりホッとしました。また、車の運転やアルバイトをするなど、自分の生き方を選択し、自立に向かってどんどん行動している Cassie を見て、「自分はこれでいいのかな」と自問自答になりました。そして、これは私の意



識改革のきっかけになりました。（お姉さんの Rocio と Christina は忙しくて、なかなか会えませんでした。）1番印象的だったのは Mooloolaba という綺麗な海を見にみんなで行ったことです。オーストラリアの海はとてもきれいで、空も広く感じられました。それから Family の友達の家でパーティーをしました。様々な国の出身の人がいてオーストラリアという国のある方を実感しました。

自然が豊かで、身近な所に多くの鳥がいました。美しい鳴き方の鳥もいて、鳥の美しい鳴き声で起きた朝は気持ちが良かったです。大自然と温かい家族に恵まれ私は心からずっとオーストラリアにいたいと思いました。Family のみんなが「また帰っておいで」と言ってくれました。

Ortega 家のみなさん、また一段成長してみんなに再会したいです。



ホストファミリーの紹介

Ortega 家

父	Carlos
母	Maria
娘	Rocio
娘	Christina
娘	Cassandra

## 竜王中学校3年



きょうの はな

## 京野 羽菜

### 1計画(PLAN)

私は今回のホームステイに参加するに当たり、次のことを目標に頑張ります。1つ目は現地の人たちと積極的にコミュニケーションをとること、2つ目はオーストラリアの文化や生活習慣を学ぶことです。これらを達成するために、たくさんの人と恥ずかしがらず自分から話しかけ、いろいろなことに挑戦します。この派遣をきっかけに自分の語学力を高め、言葉や文化が違っても人ととの絆を深めていき、何事にもチャレンジする心を身に付けていきたいです。

### 2実行(DO)

学校や街で出会った人たちには恥ずかしがらないで話しかけ会話をしました。レッドクリフステートハイスクールでは、たくさんの子たちが日本語で「こんにちは」と声をかけてくれ、すごくうれしかったです。オーストラリアと日本の違いについても教えることができ、日本の学校が終わる時間教えてるととてもおどろいていました。できるだけ電子辞書を使わずに自分の力で会話をしました。最初のころは自分の思っていることを伝えるのが難しかったけど、慣れてくると知っている単語やジェスチャーを使って結構自由にコミュニケーションをとることができるように、すごく楽しく会話をできました。

### 3評価(SEE)

☆90点

10点足りない理由はもう少し自分の思いを伝えられたらよかったと思ったからです。ホストファミリーと過ごした土日では、自分が行ったかったところを伝えておけばよかったと思いました。今回のホームステイを経験して、もっと英語を勉強したいと思いました。また、何事にもチャレンジしていきたいです。

### 私を成長させてくれたホームステイ

今回のホームステイでは貴重な経験ができ自分自身を成長させることができた10日間でした。レッドクリフステートハイスクールに初めて行った日は、近くの小学校から選ばれた子たちの日本語の授業に参加しました。子ども同士の会話を聞いてみると、スピードが速く、とても心配になりました。しかし、私と会話をする時はゆっくり話してくれてとても安心しました。後日、小学校を訪問した際、初日に参加した授業で一緒にグループ活動をした子が私のことを覚えていてくれて名前を呼んでくれ、再会することができました。



レッドクリフハイスクールに通いだして思ったことはすごく自由な学校だということです。髪を染めている人やピアスをしている人など日本の学校とは違うことがたくさんありました。でも学校や生徒が乱れているということもなく、むしろ生徒1人1人が生き生きと学校生活を送っている、そんな印象を受けました。学校では普段、いろいろな学年の日本語のクラ

スに参加しました。日本語で自己紹介をし、その後にその内容を英語で言いました。グループになって生徒たちの質問にも答えました。最初のころは聞き取った質問に答えることで精一杯でしたが、だんだんと自分からも質問をすることができ、日本のことについても紹介することができました。校内を移動しているときには、すれちがう時に日本語で「こんにちは！」や「Hello!」とあいさつしてくれる子がたくさんいてみんなフレンドリーで優しかったです。



また、学校の授業では日本と違いグループ活動が多く、生徒が積極的に手を挙げ発表していく違いにさっそくおどろきました。この10日間ではたくさんのこと経験しました。中々気持ちが伝わらず悔しかったり、私のことを覚えてくれ声をかけてくれてうれしかったり、オーストラリアの人たちの優しさを感じたりとすごく充実していました。ホームステイを最後まで充実したものにできたのはいつも優しく接してくれたホストファミリーがいたからです。関わったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。言葉や文化は違っても相手を思いやる心は同じなんだとすごく思いました。そして、この事業でのすべての経験が私を成長させてくれました。学んだことをこれから将来の選択に生かしていきたいです。

### ホームステイ報告書

私のホストファミリーの Coppell 家のみんなはとても温かくむかえてくれました。ホストマザーはいつも私の体調を気づかってくれ、またチーズがきらいだと伝えるとチーズ抜きのものを別につくってくれたりとすごく優しさを感じました。

妹の Talia と弟の Luke はいつも元気いっぱいで毎日家の中がにぎやかでした。一緒にシャボン玉をしたり、お絵かきをしたり、おり紙をしたりしました。中でもおり紙を使った数字を当てるゲームはすごく楽しかったようでそれをきっかけに仲良くなれました。2人からはたくさん元気をもらいました。



バディの karla は高3ということで受験勉強で大変な中、ビーチやマーケット、ショッピング、カフェに連れて行ってくれました。放課後には、バディの友達3人と一緒に海に行って動画をとったり、友達の家でトランプゲームをしたりしてとても楽しかったです。金曜日の夜にはバディと一緒に「GREASE（グリース）」という映画を観ました。音声は英語だったけど、特に気にすることもなく普通に楽しく観れました。

ホストファミリーと過ごす最後の休日はとても充実していました。朝からバディとマザーと一緒にフリーマーケットに行きました。帰ってからは、弟のサッカーの試合をみんなで見に行きました。その後は妹とバディとマザーでショッピングに行きました。



## 厚狭中学校3年

つじむら えり  
辻村 絵里

### 1計画(PLAN)

私は今回の派遣で、次のことをがんばりたい。1つ目は、日本とはちがうオーストラリアの文化を、体で感じること。2つ目は、たくさんの人と積極的にコミュニケーションをとり、英語力を向上させること。この2つを達成するために、たくさんの人と英語で会話し、たくさんの知識等を得て、日本に帰ってこられるようにしたい。

### 2実行(DO)

“I want to～”や“May I～？”などの表現を使って自分のしたいことを伝えてみたり、聞かれたことに対して、自分が知っている単語を使って伝えたり、わからない単語は電子辞書で調べたりして伝えたりした。上手に表現できなくても、だいたいを伝えたら、相手が察してくれたのでよかった。また、テレビでニュースを見ているとき、わからない単語がでてきたら、電子辞書で調べてみました。

### 3評価(SEE)

最初のうちは、自分から話しかけることができなくて、聞かれたことに対して答えることしかできなかつたけど、慣れてくると、いろいろなことを自分から伝えることができたのでよかった。この経験を通して、自分の意思を相手に伝えることがとても大切であることがよくわかった。だから、日本語でも、英語でも、他の言葉でも自分の意思や感情を、きちんと相手に、正しい言葉で伝えたいと思う。また、わからないことはわからないままにせず、「わからない」と相手に伝えるか、自分で調べるなどして、正しく理解することも大切であると思った。

### たった一度の経験

日本とは全くちがうオーストラリア。私はその国で10日間の貴重な体験をした。

初日、レッドクリフ・ステート・ハイスクールに着き、日本語の授業に参加した。ちょうどこの日、小学生の一日体験の日だったらしく、小学生の日本語の授業に参加した。小学生の日本語の発音の良さにびっくりした。また、先生や小学生の話す英語のスピードについていけず戸惑っていると、小学生は、気持ちを察したのか、ゆっくり、丁寧に話してくれた。緊張と不安が少しずつなくなっていました。



この日のランチの時間、私はバディと初めて会った。私は前日によくやくバディと連絡がとれたため、受け入れてもらえるかななどと不安がたくさんあったが、気軽に話しかけてくれたのでとても嬉しかった。

また、このランチの時間に、いろいろな人が

最初はやっていけるのかすごく不安だったけれど、温かく、優しく接してくれたホストファミリーのおかげで最後にはもう少しこつちにいたいなと思うぐらいになりました。私に本当の家族のように接し、迎え入れてくれた Coppell 家には感謝の気持ちでいっぱいです。すべての経験が私を成長させ、これからの未来で支えになると思います。一生忘れません。





**ホストファミリーの紹介**

Coppell 家

父	Stuart
母	Megan
娘	Karla
息子	Luke
娘	Talia

日本語の教室に来た。その時におどろいたことが1つある。みんなの髪型が自由だし、ピアスをしている人がほとんどだったことだ。しかし、学校全体の風紀が乱れているわけではなく、むしろ、1人1人の個性を大事にし、生徒の意見を尊重する、とても良い学校だった。

学校では、主に日本語の授業に参加したが、他に理科や数学の授業にも参加した。数学は、連立方程式や場合の数などをした。連立方程式の解き方が違うところにも日本とオーストリアの違いを感じた。

オーストラリアの人々は、とてもフレンドリーで、とくに小学生の子たちは、私たちをみかけたら、「こんにちは！」と流暢な日本語で話しかけてくれた。人々の優しさがこの10日間が円滑にすんだ1番の理由だと思う。

この経験で数え切れないほどたくさんのことを学ぶことができた。この経験をさせてくださったたくさんの方への感謝の気持ちを忘れず、オーストラリアで学んだたくさんのことを行からの生活にいかし、更に成長できるよう努力していきたい。

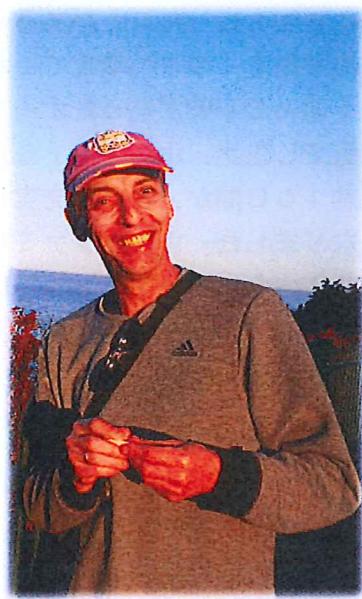


## ホームステイ報告書

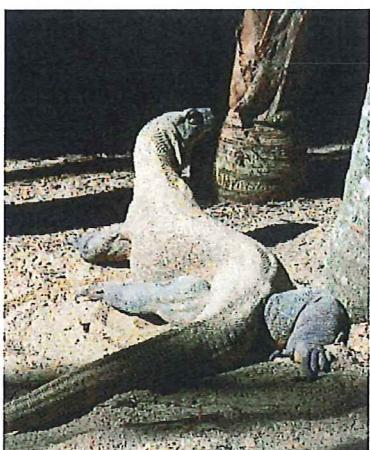
私のホストファミリーのKorendijk家は、自然や動物が大好きな家族で、家の中にはアオジタトカゲ、犬2匹、鳥2羽、ネコやヘビがいました。また、ペリカンと魚の置物や貝殻がかざってあり、本当に自然が好きなんだなと思いました。

FatherのRobは、とても家庭的で、家事などを進んで行っていました。優しくてとても面白くていつも笑わせてくれました。また、オランダ人の

Robは、私があまり英語を話せずにいるときに、「僕もあまり英語が話せなかつたけど、なれたら話せるようになるから、おそれずに話してみて」と言ってくれたので、



少しづつ話せるようになっていきました。MotherのSylviaは、仕事が忙しくても私たちを学校に連れて行ってくれたり、朝ごはんや晩ごはんを作ってくれたりしました。私が来た初日の晩ごはん・ミートパイはとてもおいしくて、今でも味を忘れられません。バディのDonnaは、いつも私のペースに合わせてくれました。英語が聞き取れなくてこまっていると、Donnaは簡単な単語にして、ゆっくり話してくれました。自分から話しかけられずにいるとDonnaから話しかけてくれました。また、Kyraととても仲が良く、学校が終わったあとDonnaとKyraと3人で海沿いにポケモンGOをしに行ったりしました。ホストファミリーとの1番の思い出は『Australia Zoo』という動物園に行ったことです。コアラやカンガルー、ウォンバットなど、オースト



ラリアで有名な動物をたくさん見ることができました。また、コアラは抱っこして写真を撮つてもらいました。その写真是、「記念に」とホストマザーが買ってくれました。

たくさんの不安があったオーストラリアへの派遣でしたが、ホストファミリーのおかげで、約10日間が、とても充実した楽しいものになりました。ホストファミリーとまた会うためにさらに英語を勉強したいです。

Korendijk家は私のもう1つの家族です。本当にありがとうございます。



## ホストファミリーの紹介

### Korendijk家

父	Rob
母	Sylvia
娘	Donna
娘(里子)	Kyra Brindley



## 小野田中学校2年

まきの りほ  
牧野 莉帆

### 1 計画 (PLAN)

私は、今回の派遣にあたっての目標が2つあります。1つ目は、知っている単語数は少ないですが、わかる表現で積極的に話しかけることです。英語でのコミュニケーションは初めてでとても不安です。でもたくさん話してホストファミリーや学校にいる子と仲良くなりたいです。2つ目は、悔いのない12日間にすることです。“楽しむ”ということも大切ですが、現地で色々なことを学び、帰国したときには大きく成長した、ステップアップした自分になりたいです。この2つのことを目標とし、有意義に過ごしたいと思います。

### 2 実行 (DO)

オーストラリアに来て、いちばん初めに感じたことは、皆とてもフレンドリーだということでした。レッドクリフステートハイスクールの生徒も、ホストファミリーの皆さんも、初対面なのに、笑顔で「こんにちは！」や「Hi！」とあいさつをしてくれ、緊張してガチガチでしたが、すぐにリラックスすることができました。私は、英語がたくさん話せるわけではなかったので、出会った人には積極的に笑顔であいさつをし、良い第一印象をもってもらえるように心がけました。また、分からぬこと、興味をもったことは、自分が分かる表現でたくさん質問をしました。そうすることで、“分からないまま”にすることなく、多くの知識を得たり、英語力の向上にもなったりと、自分にプラスになることばかりで良かったです。

### 3 評価 (SEE)

☆90点

英語できちんとした会話はできませんでしたが、目標にしていたことは全て達成できだし、ゆっくりでも、自分が思っていることや、やりたいこと、たくさんの質問も英語で話すことができました。初めは本当に不安で、ホストファミリーが迎えに来てくれたときは、何を話したら良いか全く分からず、Mother が母に電話

をかけてくれ、母の声を聞いたときに、すでに泣きそうになってしまいました。しかし、ホストファミリーがとても優しかったのですぐに信じることができ、安心して過ごすことができました。悔いのない、充実した12日間となりました。

### 感謝 ~たくさん経験を通して~

私は、今回の海外派遣で、多くの貴重な経験をしました。日本とは違う食文化や学校のルール、初めての英語に囲まれた生活や外国人の友達、普段の生活そのものが新鮮でした。派遣が決まった頃には、嬉しさ半分不安半分で、去年の先輩にたくさんアドバイスをもらいました。ホストファミリーからの情報もありがとうございました。出発当日は、楽しみな気持ちでいっぱいでした。しかし、いざ行ってみると、言葉が早くて聞き取れなかっただし、学校では、皆ピアスをつけていて、少し怖かったです。でも、スクールの生徒たちは、フレンドリーで、知らない人なのに、日本語でのあいさつや「How are you?」など、色々と話しかけてくれたので、緊張を和らげることができました。学校では、日本語の授業や数学、科学の授業に参加しました。生徒の皆は日本語がとても上手で驚きました。自己紹介文や、質問文など、一生懸命に話していて、日本語が好きなんだなと思うと、嬉しく思いました。



しかし、日本語に興味をもって日本語について質問をしてくれたのに、私が上手く説明できなくて、困らせてしまったことがありました。特に、いちばん難しかったのが、「ローマ字でつまる音はなぜアルファベットが2つ並ぶのか」という質問でした。なぜかなど考えたことがなかったので、説明の仕様がありませんでした…。

でも、このようなことを英語で身振り手振りで伝えることで、英語力がつき、とても良い経験になりました。また、小学校で一気にスピードがものすごく早い英語を聞くことで耳が慣れ、ファミリー同士の会話が、どんなことを話しているかなども分かるようになりました。

登下校中にも、文化の違いを発見しました。私は毎日歩いて登下校をしていたのですが、まず驚いたことが、新聞の配り方です。なんと、車の助手席から、家の前に投げていたのです。目の前に飛んできて、とてもびっくりしました。乱雑すぎて、バラバラになってしまっているものもありました。次に、信号についてです。オーストラリアは、日本と違い、全ての信号がボタン式でした。歩行者優先ではなく、車優先なのだと思います。また、信号の音もおもしろい音で、渡れる時間も短かったです。

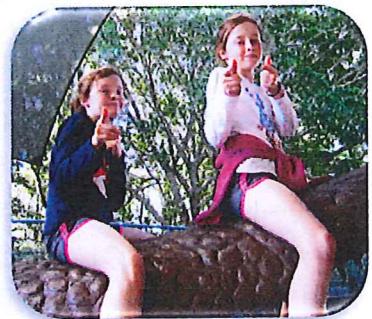
このように、とても短い10日間の滞在でしたが、多くの発見や、多くの知識を得ることができました。初めは英語に酔ってしまいましたが、日がたつにつれて、英語を聞くことが心地よくなり、今では英語が恋しいです。オーストラリアにいると、日本がちっぽけに見えることもありましたが、日本にいたら分からぬ日本の良さもたくさん発見することができました。また、今回の派遣を通して、英語だけでなく、日本語や日本の文化も勉強し、見聞を広めていきたいと思いました。この12日間は、一生忘れられない、最高の12日間になりました！そして、大きく成長できた12日間となりました！



## ホームステイ報告書

私のホストファミリーは6人家族で、とてもぎやかな家庭でした。アイルランドから、5年前に移住してきて、ホストファミリーになるのは初めてだったそうです。みんな、とても優しくて、FatherとMotherは、いつも私のことを気にかけてくれ、「体調は大丈夫?」「楽しい?」など、たくさんの言葉をかけてくれました。バディの Isobel は、少しシャイなところはあったけど、年齢が近かったため、話が合い、色々なお話をしました。兄の Josh とは、あまり交流ができませんでしたが、朝はいつも一緒に登校し、学校で会ったら、「今日はどう?」と話しかけてくれました。双子の妹、Trudy と Lucy は、とても活発でよく Father と Mother に「Crazy girl」と呼ばれていて、その場を和ませてくれる、かわいい双子ちゃんでした。

オーストラリアに行く前から、私と Isobel、母と Mother とでメールのやり取りをたくさんしたり、Facebook のフォローが来たりと、フレンドリーな家族で、家に初めて行ったときから、私を家族の一員として迎えてくれました。ホストファミリーは、私にたくさんの経験をさせてくれ、色々なところにも、連れて行ってもらいました。Father はスーパーで働いていて、Mother は看護師さんでとても忙しいのに『Australia Zoo』という動物園や『Sea world』という水族館、『Westfield』というショッピングモール、スーパーへ食材の買い物にも行きました。Australia Zoo では、とてもかわいくて人懐っこいカンガルーや、ワニのショーを見ました。カンガルーは、カメラに向けると、私に近づいて来て、最高の2ショットを撮ることができました！この日は Isobel は具合が悪くて、一緒に行くことができず、Trudy と Lucy と Mother と私の4人で行きました。Trudy と Lucy は、動物の名前を教えてくれたり、「Riho！」とたくさん話しかけてくれたので、すぐに仲良くなることができました。Sea world には、元気になった



Isobel も一緒に行くことができました。Isobel の友達も行き、エイを触ったり、イルカやアシカのショーを見たりしました。そこには、水族館なのにアトラクションやアスレチックがあり、アスレチックで鬼ごっこをして遊び、普段はしないのでとても楽しかったです。夜は友達も家に泊まり、私の髪をかわいくあみこみをしてくれました。私と Isobel が寝ている部屋に泊まり、たくさんお話をしました。毎日感じていたことなのですが、ホストファミリーはみんな寝るのが早く、Isobel や Trudy、Lucy は8時には寝ていて、私はいつも Mother と Father とテレビを見ていました。この日も友達が来ているのに、いつも通りの時間に寝てびっくりしました。日本だったら、絶対に夜ふかしをしてしまうだろうなと思いながらも、これも文化の違いなのだと感じました。スーパーは売っているものがすごく大きく、シリアルの量もとても多かったです。私がすき焼きを作るときには、うすい肉が欲しかったのに、手作業で肉をスライスするから、これ以上うすくできないと言われ、結構厚い肉ですき焼きを作りました。オーストラリアは学校にタブレットや電子黒板があって ICT 化が進んでいるのに、肉は機械を使わずにスライスすることには少し不思議に思いました。すき焼きは、Josh の口には合わなかったみたいで、最後まで食べてもらえたけど、他の人はおかわりまでしてくれるくらい、美味しくきました。シメにうどんを入れると、「Yum yum yum！」と言ってたくさん食べてくれたのでとても嬉しかったです。私がオーストラリアの文化を体験するだけではなく、ホストファミリーにも日

本の文化も体験してもらいました。日本のお菓子を食べさせてあげたり、折り紙や習字をしたり、はっぴや基平を着せてあげました。干し梅をあげると、Mother 以外、ものすごい声を出して叫んでいて面白かったです。折り紙は「難しい！」と言って、私の手元をじっくり見て折っていました。習字も、書き順などを教えてながら書いてもらうと、とても上手に書けていました。



帰る前日には、confirmation という、キリスト教信仰式に行き、普段はできない経験をさせてもらいました。まだここには書きつくせないくらい、ホストファミリーと楽しい10日間を過ごしました。Isobel とおそろいの服を買ったり、オーストラリアのお寿司を体験したりと、本当に充実した日々でした。最終日に Trudy がくれたネックレス、Isobel とおそろいの服、ホストファミリーと過ごした日々は一生の宝物です。絶対

に再会をし、その時には、すらすらとお話をしたいです。

Aylward 家は、私のもう1つの大好きな家族です！



## ホストファミリーの紹介

### Aylward 家

父	Liam
母	Loisin
息子	Josh
娘	Isobel
娘	Trudy
娘	Lucy

引率者

## 高千帆中学校教頭



くわむら ひろふみ

桑村 浩文

### ★中学生海外派遣事業 帰国報告書

厚狭駅を午前7時に出発し、福岡からシンガポールまで約6時間のフライト、シンガポールでの乗り換えに約6時間、シンガポールからブリスベンまで約8時間のフライトを経て、ブリスベン空港で迎えのワンボックスカーに乗り込んだのは翌日の朝8時過ぎだった。空気が冷たく、南半球は冬などと実感した。空港からレッドクリフ・ステートハイスクールに直行し、ハイスクールでの生活が始まつた。

山陽小野田市の生徒たちのハイスクールでの活動内容の主なものは以下のようなものだった。(1)日本語の授業に参加し、自己紹介をしたり、現地の生徒と日本語で会話をしたり、日本の文化について日本語と英語で説明すること。(2)ハイスクールの普通の授業と一緒に参加し、英語での授業を体験すること。(3)2つの小学校を訪問し、日本語の授業の手伝いをしたり、休憩時間に一緒に遊んだりすること。(4)ハイスクールの日本語クラスの生徒と一緒にブリスベン市内や動物園を見学しながら、交流を図ると同時にお互いの言語を学ぶこと。(5)歓迎セレモニーやお別れパーティーに参加し、挨拶すること。(6)日本語の授業で、事前研修で準備したゲームの進行をすること。(7)小学校での集会に参加し、挨拶すること。

山陽小野田市の生徒たちの活動については事前に知らされていた内容から変更されたものや、こちらがイメージしていたものと違っていたものもあった。歓迎セレモニーは、少し大きめの階段状の教室で校長先生も参加され、両国の国歌も演奏される厳かなものだったのに対して、お別れパーティーのほうは、約30分の休憩時間にジュースやお菓子を食べたり、山陽小野田市の生徒が一斉にミートパイを食べるという催しもあったりと、とてもリラックスしたものだった。お別れパーティーで行うために準備していたゲームは、時間的な制約もあって、ウォレス先生の日本語授業の中でさせてもらうことになった。また、授業の前に「次のクラスでも1つゲームをしてください」と言われて準備していたが、時間的にゆとりがなくなり結局できないということもあった。



ハイスクール側の担当者であるフリスビー先生が山陽小野田市の生徒たちに行った講義の中で、オーストラリアと日本、中国、台湾の文化的違いを話してくださった。その中で「不確実性の回避(uncertainty avoidance)」の数値が紹介された。日本の92に対してオーストラリアは51であり、それは日本が予定や計画を変更することを嫌うのに

対して、オーストラリアはそれに対して柔軟であるということを示していた。これは国民性や文化的なものであり、こういうことを理解した上で、こちらも変更や予定と違う部分に対して、臨機応変に対応することが必要であると感じた。

山陽小野田市の生徒は9日間モートンベイで過ごしたが、そのうち3日間はハイスクールでの授業参加、2日間はハイスクールの生徒と一緒に校外学習、1日は2つの小学校を訪問しての交流で、残りの3日間は学校を離れてホストファミリーとすごした。



この時間的な配分はちょうどよいバランスだと感じた。オーストラリアの学校生活の様子を十分に肌で感じ

取ることもできだし、小学校の様子も知ることができた。また、校外学習では市街地や博物館、美術館、動物園、植物園などなどの文化施設、鉄道、バス、フェリーなどの交通機関を利用する体験もできた。特に動物園でカンガルーやコアラなどの動物を見たり、シープドッグのショーや猛禽類の捕食の実演を見たりすることは生徒たちにとって大きな思い出となったはずである。さらにホストファミリーとすごした3日間は、自分の英語力をフル活用しながら、周りの人たちを理解し、自分を理解してもらうために工夫し、努力することで自分のコミュニケーション能力を飛躍的に伸ばすことができたはずである。

ハイスクールで過ごした3日間の授業の内訳は、日本語の授業への参加が中心であるが、4時間ほど他の授業（数学3、理科1）にも出席した。日本語以外の授業を理解することはかなり難しいので、語学以外の授業の雰囲気を体験するにはこれぐらいが適当であると感じた。

生徒たちの生活パターンは、朝8時30分に日本語教室に集合して健康観察、8時50分～10時（70分授業）が1時間目、10時～10時25分がモーニングティーという休憩と軽い食事の時間、10時25分～11時35分が2時間目、11時35分～12時45分が3時間目、12時45分～1時30分が昼食時間、1時30分～2時40分が4時間目、4時

間目終了後はバディやホストファミリーと一緒に下校となる。ただし、金曜日だけは60分授業にして、1、2時間目を続けた後に、30分の昼食時間をとり、3、4時間目を続けて、1時10分には下校だった。

放課後には部活動といったものはほとんど行われていない。フリスビー先生の話によると、私立の学校では部活動に力を入れているところもあるが、公立のハイスクールでは部活動はあまり行われていないとのことだった。そのため放課後の学校内はがらんとして寂しいものだった。

ただし、水曜日と金曜日には放課後に補習が行われていた。また、1時間目の前に早朝授業（7時30分～8時40分）を行っている日もあった。これは、テスト前などに行われるそうだ。

学校の施設を見てみると、校地内に広いグランドがあり、校舎は教科棟になっており、少し離れて建てられているが、一部2階建てであることを除けば、多くは平屋であり校舎間の移動はしやすいと感じた。各教室にはノートパソコンがあり、短焦点型のプロジェクターが正面のホワイトボードの上に設置してあった。また、教室によってはスマートボードと呼ばれる大型の電子黒板（80インチぐらい）が設置されていた。これらの設備に関して



は訪問した2つの小学校でも同様であった。小学校で参加した授業ではiPadを使って写真を撮る活動を行っていた。授業の途中に生徒の出席確認を行い、その場で教室のノートパソコンから入力している姿を多く見かけた。これは、ネットワーク経由で行政機関とつながっており、行政機関が生徒一人ひとりの各授業の出欠状況をリアルタイムで掌握しているということである。ICT技術を教室に取り込んでいる点では日本の多くの学校よりもかなり進んでいるという印象を受けた。

小学校では2年生から外国語を1週間に30分、5年生からは1週間に1時間学習するが、学校で教える外国語は1つだけだ。訪問した2つの小学

校では、その1つの外国語に日本語を選択していた。フリスビー先生の話では、クイーンズランド州のハイスクールで一番人気のある選択外国語は、日本語であるとのことだった。オーストラリアの人たちが私たちの国の言葉を一生懸命学んでくれて



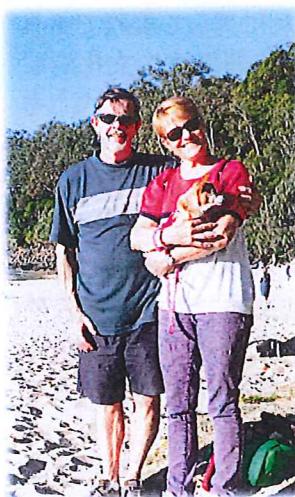
いることをとてもありがたく感じた。

オーストラリアの学校は日本の学校と時間割も昼食時間も部活動も施設も多くの点で違っていたが、日本語を教えている先生たちは、早朝授業を行ったり、放課後に補習授業をしたりと、生徒にしっかり学力をつけさせようと努力していた。また、日本語の授業を受けている生徒たちに少しでも日本語や日本という国に興味を持たせようと、全員に山陽小野田市の生徒と触れ合う機会を持つよう工夫をしていた。

我々を受け入れてくれたホストファミリーについて記しておきたい。フリスビー先生の話によると、ホームステイ先の家族を決定するにあたって、生徒本人と家族からの希望を取り、家庭状況等の様々な条件を勘案し、選考しているとのことだった。それだけに素晴らしい家族で、生徒たちはそれぞれの家族に温かく迎え入れていただき、素晴らしい異文化体験をすることができた。毎朝、日本語教室に集合すると「昨日、バディがこうだった。」「ホストファミリーとこんなことをした。」「うちのホストファミリーは…」と次から次へと生徒たちからホストファミリーの話題が飛び出してきた。

私が直接それぞれの家族と話す機会はなかったが、最終日のお別れの場面での生徒たちの涙を見て、一人ひとりが温かい家族に迎え入れてもらったことを確信した。

私自身もホストファミリーと9日間をすごした。ホロハン家はご主人のパトリックさんと奥様のメリリンさんのご夫婦である。



パトリックさんは物静かなコンピューターとラグビーが好きなお父さん。メリリンさんはガーデニングや編み物が好きで、ケーキ作りは人から頼まれて多くのウェディングケーキを作るなどプロと言つていい腕前である。

お二人は、私を楽しませようと一生懸命接してくださった。ラグビーの試合観戦に行ったり、スカッシュをしたり、息子さん家族との食事会に行ったり、親せきを訪ねたり、2人の孫と公園で過ごしたりと、ホロハン家の普段の生活の中に仲間入りさせてもらい、たくさんの経験をさせてもらつた。そして多くの方に私を紹介してくださった。出会った多くの人たちもとても気さくに私に声をかけてくださいました。

休日には私に様々な体験をさせようと、車や列車で出かけて、夜遅くまで様々な場所を案内してくださった。美しくどこまでも続くビーチ、ハイウェイ沿いに見た延々と続く森、レッドクリフの名前の由来となった赤い土の崖、地平線に沈む夕日など、数え切れない。

なかでもお二人と話したたくさんの話題が一番



の思い出である。食事の時は食べものについて。お茶を飲みながら家族やペットの犬やインコのことを。写真を見せてもらいながら、メリリンさんのケーキ作りやガーデニング、DIY のことを。庭では、植物や、そこにやってくる鳥たちのことを。テレビを見ながらオリンピックや番組の内容について。さらに、これまでにホロハン家にお世話になった人たちの

こと。とにかくたくさんの話をすることができた。お二人の人柄やオーストラリアの文化や習慣を知ることができた楽しい時間だった。

ホロハン家はこれまでにも山陽小野田市の引率者を迎えてきたと聞いているが、本当に素晴らしい、ホスピタリティに富んだファミリーである。感謝しても感謝しきれないほどよくしていただいた。

このような素晴らしいホストファミリーとの出会いと交流こそ私自身の大きな収穫だった。

この海外派遣事業を通して、最初は小学生に対しても自分の考えを表現できずに困ったり、どう対応してよいかわからず戸惑っていたりした生徒たちも、時とともに成長し、自分なりに工夫して乗り越える力を大きく伸ばすことができたはずである。

様々な苦労をしながら最後まで頑張った6人の派遣生徒に拍手を送りたい。

今後もこの事業が継続され、これからも山陽小野田市の多くの中学生にモートンベイの人達との交流と異文化体験の機会が与えられることを願ってやまない。そうした中学生が大人になり、海外で活躍したり、地元で海外との交流に力を発揮する役割を担ったりしてくれることを期待している。

今回の事業にあたり、このような貴重な経験をさせていただいたことと、周到な計画と事前の準備や研修に尽力された山陽小野田市の関係者の皆様に感謝いたします。



### ホストファミリーの紹介

Holohan 家

夫 Patrick

妻 Merrilynne

28

編集・発行

## 山陽小野田市市民生活部市民生活課

〒756-8601

山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134

FAX 0836-83-2604